

通し番号	4 8 2 0
------	---------

分類番号	28-34-12-03
------	-------------

カキ‘太秋’への夏期の施肥は落果抑制、雄花着生の抑制、連年安定生産につながります	
[要約] カキ‘太秋’の収穫の約40～60日前にあたる8月下旬から9月上旬の間に施肥を行うことにより、収穫前の落果および、翌年の雄花着生が減少し、連年の安定生産につなげることができる。	
神奈川県農業技術センター・生産技術部	連絡先 0463-58-0333

#### [背景・ねらい]

カキ‘太秋’は、県内産地に普及しているが、従来品種と異なり雄花を着生するため、安定生産が難しい。そこで、収穫の約40～60日前にあたる8月下旬から9月上旬の間に施肥を行うことにより雄花着生を減らし、雌花着生を増やす効果があるとの県内の篤農技術をもとに、カキ‘太秋’の夏期の施肥による安定生産技術を確立する。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 カキ‘太秋’の収穫の40～60日前にあたる8月下旬～9月上旬に、窒素成分5kg程度の施肥（表1）を行うことにより、雄花の着生が減少し（表2）、摘果後の落果率が減少する（表3）。
- 2 収穫時期は、果頂部のカラーチャート値4以上を目安とした場合、収穫盛期は慣行栽培よりも3日程度遅れ、収穫終期は4日程度遅れる（表4）。このとき、果実重や品質等の差は認められない（データ略）。
- 3 継続的に夏施肥を行うと、連年の収量増加がみられ、安定生産につながる（図1）。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 夏施肥を行った場合は、収穫中または収穫後の施肥（礼肥）を省略する。
- 2 収穫時期がやや遅れるため、早もぎに注意し、食味を重視して収穫する。
- 3 夏施肥は樹体の生育（新梢本数や結果母枝率（新梢長35cmで先端径4.5mmの新梢数が全新梢数に占める割合））には影響しない。

[ 具体的データ ]

表1 夏施肥の年間施肥量 (2013年)

処理区		4月上旬	6月下旬	8月下旬	11月上旬	Total(kg/10a)
夏施肥区	N	12.9	5.7	5.0		23.6
	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	13.8	2.2	2.2		18.2
	K <sub>2</sub> O	13.8	2.2	2.2		18.2
標準施肥区	N	12.9	5.7		4.3	22.9
	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	13.8	2.2		4.3	20.3
	K <sub>2</sub> O	13.8	2.2		4.3	20.3

表2 施肥法の違いが新梢生育と着花に及ぼす影響 (2015年5月)

試験区	結果母枝長 cm	母枝基部径 cm	1結果母枝当り新梢・花芽着生				
			発生新梢数	雌花		雄花	
				着生新梢数	着生数	着生新梢数	着生数
夏施肥区	32.4	9.8	7.1	2.7	8.4	3.8	15.4
標準施肥区	33.0	10.7	8.0	2.1	6.4	5.6	28.4
有意性 <sup>z</sup>	n.s.	*	n.s.	n.s.	*	**	**

z: 有意性はt検定による(\*\*:1%水準、\*:5%水準で有意差あり)

表3 施肥法の違いが摘果後の落果率、収量に及ぼす影響 (2015年)

試験区	樹冠面積 (m <sup>2</sup> /樹)	樹冠面積当り 結果母枝数(本/m <sup>2</sup> )	樹冠面積当り (果/m <sup>2</sup> )		摘果後 落果率(%)
			摘果後着果数	収穫果数	
夏施肥区	12.0	4.1	8.5	6.9	19.5
標準施肥区	13.2	3.9	5.8	4.0	30.8

表4 施肥法の違いが収穫時期に及ぼす影響 (2013年~2016年)

年	夏施肥区			標準施肥区		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
2013年	10月9日	10月21日	11月5日	10月9日	10月18日	10月28日
2014年	10月14日	10月27日	11月7日	10月14日	10月23日	11月4日
2015年	10月8日	10月19日	11月2日	10月8日	10月19日	10月29日
2016年	10月11日	10月31日	11月8日	10月11日	10月24日	11月7日
平均	10月10日	10月24日	11月5日	10月10日	10月21日	11月1日

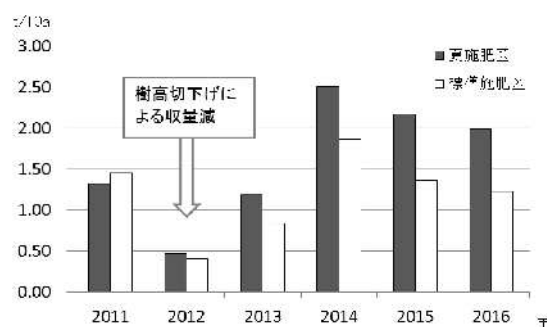


図1 収量に及ぼす夏期施肥の影響

[ 資料名 ] 平成26~28年度試験研究成績書(果樹)

[ 研究課題名 ] 落葉果樹の高品質・安定生産技術の開発

(7) 太秋の安定生産技術の確立

夏肥施用による雌花着生効果の確認

[ 研究者担当名 ] 小泉 和明・柴田健一郎・廣瀬 恭祐